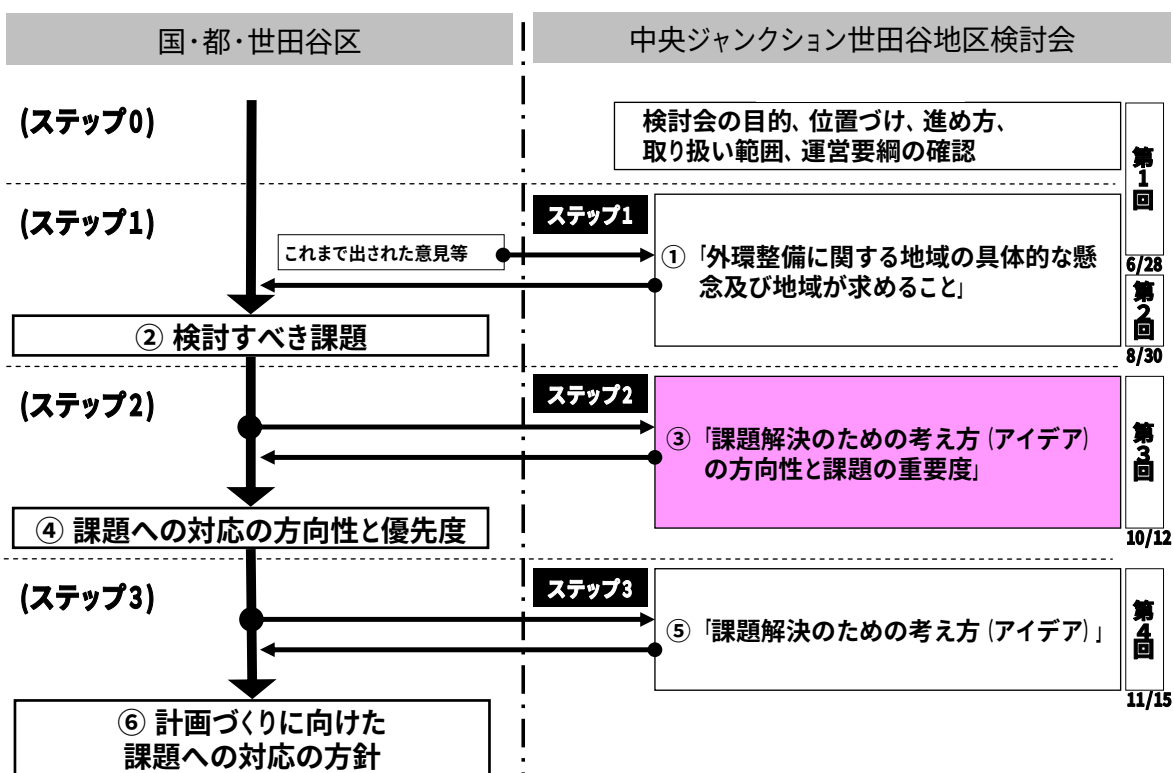


② ステップ 2-1

課題解決のための考え方（アイデア）の方向性と課題の重要度

- メンバーが議論した内容と、課題解決のための考え方の方向性を掲載しています。課題解決のための考え方の方向性は、各グループの進行役が、これまでの議論を踏まえてまとめたものです。



中央ジャンクション世田谷地区検討会

課題解決のための考え方(アイデア)の方向性と課題の重要度

【本資料について】

- ・本資料は、中央ジャンクション世田谷地区検討会ステップ2でのメンバーの議論の成果となります。
- ・この中には、メンバーが議論した内容と、課題解決のための考え方（アイデア）の方向性を掲載しています。
- ・課題解決のための考え方（アイデア）の方向性は、各グループの進行役が、これまでの議論を踏まえてまとめたものです。

A グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・東八 IC から出た車が烏山通りや吉祥寺通りに入り込むので、これらの道路の拡幅や交差点の改良を行うとともに、東八道路への誘導を行うことで、烏山通りや吉祥寺通りの負担軽減や歩行者の安全性向上を図る。
- ・外環の整備に併せた都市計画道路の整備や側道の整備を進めることで、吉祥寺通りの機能確保や自転車・歩行者のアクセス動線の確保、周辺交通混雑の緩和を図る。
- ・補助 219 号線と烏山通り・中央道側道の交差点が危険なのでルート変更を行う。
- ・補助 219 号線のルートの変更や大学周辺の区道廃止等により、日本女子体育大学の敷地分断への対応を図る。
- ・生活道路は6メートル以上に拡幅することで、災害時の緊急車両の走行を可能とする。
- ・工事時の車両交通計画の立案、情報提供などにより、工事中の生活環境の悪化や安全性の低下、渋滞の悪化等の対策を講じる。

交通

- ・吉祥寺通りの分断による不便を解消し、バスの通行ができるようにするために、現況道路の幅員を拡幅してほしい。また、自転車・歩行者のアクセス動線を確保してほしい。
- ・東八 IC ができることにより、烏山通りの通行量が増えることが予想されるが、幅員が狭く、信号が多いために、渋滞が起こるのではないかと。烏山通りを再整備してほしい。
- ・現在、中央自動車道の側道が変則的で使いにくい（三鷹市内は側道が高速道路の片側で交互通行、世田谷区内は両側でそれぞれ一方通行）。側道は、車と人の安全性が確保されるように、幅員の確保と交互通行にしてほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線と烏山通り・中央自動車道の側道との交差点は鋭角に交差する危険な交差点になることにより、交通事故や大渋滞が発生することを懸念している。都市計画道路の計画変更をしてほしい。

まちづくり

- ・東八 IC から降りた車により烏山通りの負担が大きくなる、東八 IC から降りた車はなるべく東八道路を通ってもらえるようにできないか。
- ・烏山通りは現状の幅員では車の通行量をさばくことができない。東八 IC から甲州街道に行くために烏山通りを通る。吉祥寺通りと甲州街道の交差点は右折する信号が短いので抜けることができない。烏山通りは、右折レーンの整備と現状幅員の拡幅が必要である。
- ・烏山通り、吉祥寺通りと甲州街道の交差点は、右折レーンがない。交差点を拡幅して、右折レーンをつくるなどの対応が必要である。
- ・東八道路、東八 IC を作ったら、車の通行量が増えるので、補助 217 号線を早期につくる必要があるのではないかと。
- ・補助 217 号線は、既に建物がたくさん建っているので、区画整理をすることができないため、整備するのは難しい。
- ・生活道路は傘を差して歩く人と自動車が安全に歩くことができるためには4メートルでは充分ではない。
- ・生活道路に車が通行させたくない人もいるが、火災時などを想定すると車が通行できないのは問題である。
- ・地区内の生活道路は、車の交互通行、火災時の緊急車両の通行を可能にするために幅員6メートルが必要である。
- ・吉祥寺通りの分断による不便を解消し、バスの通行ができるようにするために、現況道路の幅員を拡幅してほしい。また、自転車・歩行者のアクセス動線を確保してほしい。・全体の道路ネットワークの中での都市計画道路補助 219 号線は必要性が疑問。外環整備に伴い、都市計画道路補助 219 号線などの道路について、必要性を再考してほしい。
- ・吉祥寺通りの代替として、都市計画道路補助 219 号線が整備されることを心配している。三鷹都市計画道路 3・4・3 号線を整備し、あとは中川遊歩道沿いに道をつくれれば充分である。
- ・環境施設帯に側道をつくれれば、都市計画道路補助 219 号線を整備する必要はない。
- ・東八 IC ができることにより、周辺の農地が物流センターに変わるなど土地利用が変化するのではないかと。土地利用を規制して防ぐことができないか。
- ・北野小学校の通学路を確保するために中央 JCT 上部の利用が可能であれば、生活道路をとおしてほしい。

安全・安心

- ・東八 IC ができることにより、現在抜け道になっている道がさらに通行量が増えるのではないか。通学路などの生活道路におけることもたちの安全確保をしてほしい。
- ・現在、中央自動車道の側道が変則的で使いにくい（三鷹市内は側道が高速道路の片側で交互通行、世田谷区内は両側でそれぞれ一方通行）。側道は、車と人の安全性が確保されるように、幅員の確保と交互通行にしてほしい。
- ・現在、地区内道路は歩道が未整備であり、インターができ交通量が増えたとき、安全面で不安がある。安心して歩くことのできる歩道を整備してほしい。
- ・補助 219 号線のルートを烏山通りに接続するように変更すると T 字の交差点ができ、烏山通りの交通量が増えてしまう。また、交差点の角度の問題はあるが、補助 219 号線は中央道側道に接続した方がいい。
- ・補助 219 号線は、烏山通り・中央道側道の交差点は危ない交差点になってしまう交通安全上の問題がある。

工事中

- ・外環の工事を行うときに土砂などの搬出をどのようにするのか計画を教えてください。
- ・外環の工事中にダンプによる土砂搬出のために東八、烏山通りを使う場合には粉塵と交通量増加が懸念される。
- ・東八 IC から出た車が吉祥寺通り、烏山通りを通行せずに東八道路を通るようにしてほしい。吉祥寺通り、烏山通りは高齢者の交通事故が増えており、横断するのが大変である。

用地・補償

- ・都市計画道路補助 219 号線を整備することにより、日本女子体育大学の敷地を分断し、面積が縮小するために大学運営に問題が起ることを懸念している。地域に根ざした大学であるので、代替地を確保してほしい。
- ・日本女子体育大学の敷地が補助 219 号線整備により、4 分割されてしまう。代替地による補償ではなく、補助 219 号線を廃止してほしい。補助 219 号線が整備される場合には、交通の危険がある。また、三角形の敷地が残ってしまうので区道を廃止するなどの対応をしてほしい。

計画検討の進め方

- ・外環の工事はいつからはじまるか早く教えてください。
- ・既存の道路のうち、残る道路と廃止になる道路を教えてください。

(2) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ JCT 部分を高架構造にすることなどにより、外環と中央自動車道による地域分断の最小限化を最優先として検討する。
- ・中央 JCT の構造を再検討することで、都市計画道路の道路線形の再検討、周辺道路の現状機能の維持、安全性の向上、上部空間の有効利用を図る。
- ・東八 IC の出入口から下り勾配を付け、橋掛けによる北野地区の地域分断を最小限にすることを検討する。
- ・検討にあたっては、立面図や蓋かけ可能な範囲を示すなどの情報提供が必要である。

交通

- ・吉祥寺通りは平面のまま、通行できるように中央 JCT の構造を工夫してほしい。
- ・外環境界部にある土地は接続道路がなく不便になる。また現在、細い生活道路の行き来がしにくいので、幅員が十分な道路を造ってほしい。
- ・三鷹都市計画道路 3・4・11 号線の中央 JCT 交差部分は直線にできないのか。
- ・対応のアイデアを出すためには、JCT の構造を示すのは平面図ではなく、立面図で示す必要がある。

環境

- ・中央 JCT のオープン部分からの騒音悪化を心配している。蓋掛けをできるだけしてほしい。その場合、景観や活用方法も有効なものを期待する。

まちづくり

- ・吉祥寺通りは平面のまま、通行できるように中央 JCT の構造を工夫してほしい。
- ・生活道路である吉祥寺通りが分断されると不便になる。中央 JCT 部分に蓋かけをしても残してほしい。
- ・地区内のあらゆる生活道路が分断されてしまう。なるべく分断されないようにしてほしい。
- ・生活道路が分断されてしまう。中央 JCT 上部等を活用して、生活道路をできるだけ活かしてほしい。
- ・中央 JCT 部分をグランドにするなどの有効活用をしてほしい。

い

- ・なるべく地域分断をしないことを最優先にしたJCTの構造にしてほしい。
- ・JCTを高架構造にすると側道を通することができる。日陰の問題はない。騒音については防音壁を付けることにより対応できる。美女木JCTのように信号を付けることにより、全体を小さくできる。排出ガスは構造に関係なく出てしまうので影響はない。東八ICは、入口からすぐに下り勾配にすることにより、地域分断をふさげるのではないかな。
- ・JCTの構造が複雑すぎる。外環と中央自動車道の出入りの車が全て東八道路に出てしまう。東八ICの出入口から道路を下げて、橋を架けることにより、地域分断の影響を少なくすることができる。
- ・JCTを高架構造にすることにより、緑や側道をつくってほしい。
- ・東八ICの入口から中央JCTにかけて地区が現在平面で通過できているものが分断されるので、地域社会に大きな影響がある。検討会をするためにはどの場所が蓋かけが可能かを具体的に示すことが必要である。
- ・北野地区には日本女子体育大学の生徒が下宿をしており、東名ICの出入口への道路によって、分断されると生活できない。三鷹都市計画道路3.4.3に加えて、自転車で行わたることのできる数本の道路が必要である。
- ・地域分断を100%防ぐことは無理かも知れないが、地域分断を70%くらいは防げるようにしないとイケない。
- ・JCTの地下化により、中央道による道路分断も生じる、外環と中央道を一緒に対応してほしい。
- ・中央JCTの構造が複雑であることにより、中央JCT内の走行が危険である。また、吉祥寺通りを分断することになる。構造を再考してほしい。
- ・中央JCT料金所職員への健康被害に配慮してほしい。

安全・安心

(3) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・完全に無害化できる機能を持った換気装置の導入や換気所の高さを再検討することで、環境への影響を軽減させる。
- ・三鷹都市計画道路3.4.11を直線にするために換気所の位置を移動する。

交通

- ・三鷹都市計画道路3.4.11は換気所の影響で、オーバース部分が曲線になっている。生活に困るので三鷹都市計画道路3.4.11はまっすぐな道路にしてほしい。
- ・換気所を移動することにより、三鷹都市計画道路3.4.11のオーバース部分を直線にすることができる。
- ・三鷹都市計画道路3.4.11のオーバース部分のS字カーブを直線化してほしい。

環境

- ・外環が整備されることにより渋滞が解消されて、エネルギーの有効利用につながることを期待する。しかし、排出ガスによる影響を懸念しているので、排出ガス対策をしてほしい。
- ・地区内に換気所が2カ所できることによる環境への影響を懸念している。完全に無害化できる機能を持った換気装置をつけてほしい。
- ・換気所が2本あることにより、2倍の大気質の汚染があるのではないかな。換気所を高くして、大気中に拡散できないかな。

(4) 環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・環境施設帯は、緑の整備だけでなく側道の整備など、人の移動性向上のための有効活用を図る。

まちづくり

- ・外環により生活道路が分断されるので利便性を確保するために環境施設帯に側道を作してほしい。環境施設帯は緑だけでなく、人が通れるようにしてほしい。

環境

- ・環境施設帯の緑地活用をしてほしい。

(5) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・用地補償は地元地権者や居住者等の意向や代替地の確保、買収後の納税などについても考慮した対応をおこなう。
- ・高速道路通行料金の適切な設定、高速道路利用者への適切な情報提供を行うなど、周辺道路の混雑緩和の対策を講じる。

交通

- ・外環から中央自動車道高井戸 IC 方面に行く場合の通行料を高く設定すると、東八 IC から出る車が増えて、烏山通りが混雑するのではないかと。東八 IC から降りないように情報提供する必要がある。

計画検討の進め方

- ・相続税納税猶予制度を活用した生産緑地が外環の整備に合わせて収用されると相続税に加えて、延納分の利子税を納めなくてはならない。土地を買収する場合には、代替地の確保や利子税分の補償をしてほしい。
- ・外環による影響は死活問題である地元地権者、住んでいる人を一番尊重して、決めてほしい。
- ・世田谷・調布・三鷹・杉並と一緒に考えてほしい。

B グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・交通量の増加に対応する都市計画道路や生活道路の通行機能の確保、ICの追加、周辺土地利用の維持のための側道の整備などにより、外環による影響を低減させるための整備を総合的に実施し、安全に住み続けられる地域環境を維持する。
- ・周辺道路の先行整備や中央道への臨時出入り口の設置などにより、工事中の安全性や生活環境への影響低減を講じる。
- ・用地補償の範囲や代替地の提示など、外環整備にともなう用地補償の影響を低減する。
- ・都市計画道路補助 219 号線沿線の大学機能への影響を低減するため、ルートの変更あるいは、隣接代替地を補償する。
- ・地価の低下が予想される外環の整備周辺地域の第一種低層住居専用地域の用途地域の見直しを行い、建ぺい率および容積率を上げる。

交通

- ・生活道路の分断解消のため、三鷹都市計画道路 3・4・3 号線を整備する。都市計画道路補助 219 号線は必要性を検討する。
- ・交通量の増加に対応するため、吉祥寺通り、烏山通り、松葉通りなどの拡幅等による交通機能維持・強化、一般道の都市計画道路網整備を実施する。
- ・東八 IC を利用する交通が甲州街道に流れるため、吉祥寺通り、烏山通りなど甲州街道（国道 20 号）につながる道路が現状以上に渋滞することが懸念される。インターチェンジは東八道路ではなく甲州街道（国道 20 号）に設けた方が利便性が高く、地域への影響も少なくなる。

まちづくり

- ・生活道路の分断の解消、建物が既存不適格となることを防ぐため、環境施設帯を利用した側道とそこにつながる生活道路を車線 2 車線＋歩道で 6m で整備する。
- ・吉祥寺通りの分断を解消するため、吉祥寺通りから側道で三鷹都市計画道路 3・4・11 号線につなぐとともに、調布都市計画道路 3・4・17 号線を同時に整備し、甲州街道（国

道 20 号）までつなげる。

- ・地価の低下を防止するため、特に地価下落が予想される給田 5 丁目など第一種低層住居専用地域の用途地域の見直しを行い、建ぺい率および容積率を上げる。

工事中

- ・工事車両が通行する場合の一般道の安全性や生活環境への影響に対応するため、外環整備を行う前に関係する三鷹都市計画道路 3・4・3 号線、3・4・11 号線等を整備する。
- ・工事中の工事車両は相当多いのではないかと。生活環境や地域交通への影響を懸念する。工事中は一般道を使わず中央道に臨時出入口を設け、中央道により資材や残土等の搬入を行う。あるいは、東八 IC を取り止め、ジャンクションのみとし、工期を短縮し工事車両を減少させる。

安全・安心

用地・補償

- ・通学路の分断を解消するため、安全な通学路を確保する。
- ・都市計画道路補助 219 号線沿線の大学機能への影響を低減するため、ルートの変更あるいは、隣接代替地を補償する。
- ・買収用地で従前どおりの土地利用ができない残地について、十分な補償をする。

(2) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・脱硝機能など排出ガスのフィルター機能があり、事故が発生したときも適切に機能する換気所とし、地域の生活への影響を最小限にする。
- ・廃熱エネルギー活用や太陽光発電などの技術を研究・採用するなど、地域への利益還元や換気所の安全対策を図る。
- ・脱硝装置が装備されず、高さによる影響の差が明らかでないのであれば、他の地域と同じ 30m にする。

環境

- ・換気所周辺の大気質が悪化するのではないかと。特に停電等の事故時に電気集塵機の故障で排出ガスが処理されずに周辺への影響が増加することが心配である。事故時の対応について、情報提供してほしい。
- ・換気所の高さが他の地域より低く、周辺に排出ガスの影響が増えるのではないかと心配である。脱硝装置が装備され

ず、高さによる影響の差が明らかでないのであれば、他の地域と同じ 30m にしてほしい。周辺の景観に配慮したとのことだが、近くの三鷹市環境センターの排気塔は 59m あるので、中央 JCT の換気塔だけ低くする必要性は感じられない。

- ・換気所から排出される Nox が心配であるため、脱 Nox 対策を実施する。
- ・停電時に排出ガスを適切に処理するため、太陽光発電機を設置する。
- ・地域への利益還元のため、排出ガスなどの廃熱エネルギーを活用する。
- ・換気所に関して、首都高中央環状線での影響に関する情報を示してほしい。

まちづくり

計画検討の進め方

(3) 環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・地域の防災性、地域の利便性を向上、資産価値を維持させるための環境施設帯とし、遊歩道や防災広場、安全な側道（6m以上）の整備などにより、地域の交流を生み出す。
- ・環境施設帯を利用して設置する側道は6m以上とし、通学路の安全が確保できるように歩道を設ける。

まちづくり

- ・第六中学校の通学路の分断を解消するため、北野 1 丁目と 2 丁目の間の通行機能を確認する。
- ・生活道路の通行機の確保とともに、地域の人々が楽しく散策できるよう、環境施設帯に遊歩道や自転車道を設ける。
- ・外環の整備によって北野 3 丁目、4 丁目と給田 5 丁目間の通行が分断されることが心配である。これらの地域は通学や親類同士の往来のため、結びつきが強い。多少、複雑になってもジャンクションを通過できるよう、環境施設帯に遊歩道、自転車道を設けてほしい。

- ・接道する土地の地価の低下を防ぐため、環境施設帯を利用して設置する側道は 6mを確保する。
- ・地域の防災性を向上させるため、環境施設帯に仮設住宅建設などのための防災用広場を設ける。
- ・環境施設帯を利用して設置する側道は6m以上とし、通学路の安全が確保できるように歩道を設ける。

安全・安心

(4) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ジャンクション部の蓋かけなど、中央 JCT からの排出ガス流出や騒音抑制などの対策を検討・実施することにより、環境への影響を最大限低減させる。

環境

- ・ジャンクションからの排気や騒音が心配。できるだけ蓋掛けしてほしい。

(5) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・中央高速道路の騒音対策や地域の雨水排水対策を行うことで、中央ジャンクション整備による環境への影響を低減させ、地域に受け入れられるように事業を検討する。
- ・より具体的な対応策や事業進捗に合わせた適切な情報提供を行う。

環境

- ・現在の中央道からの騒音を低減させるため、南側の防音壁を上げる。

安全・安心

- ・地域の雨水排水に影響が出ないよう、排水計画を踏まえた整備とする。

計画検討の進め方

- ・中央ジャンクションに関わる三地区（調布、三鷹、世田谷）

の検討会の他地区（調布、三鷹）の途中段階での取りまとめの結果を情報提供してほしい。

- ・「検討すべき課題」が主催者から出される前に、他の地域の意見を知りたい。
- ・検討会が終わるまでに、出された意見が今後の設計に何をどう活かすのかを示すなど、行政として誠意を見せてほしい。
- ・各区市から出された要望書への回答より具体的な対応を示してほしい。
- ・事業の進捗にともない、情報提供を随時行う。

C グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・吉祥寺通りは都市計画道路の見直しにより、ジャンクション用地などを經由して従来通りつなげるようにする。
- ・吉祥寺通りや中央自動車道の側道、生活道路、災害時の避難経路、ガスパ等の地下埋設物など、分断の可能性のある全ての道路の計画案、交通量予測などを示す。
- ・緑の広場や畑、雑木林、路地空間などのアメニティや住みやすさなどの視点を影響評価に追加して、環境が劣化しないようにする。
- ・高源院の鴨池など、地域を代表する湧水への影響を追加調査する。
- ・事前の影響評価の試算だけでなく、外環開通後に、影響評価の予測地点と同じ場所でモニタリングをし、予測値と実測値を検証する。
- ・周辺の都市計画道路の整備に合わせて、街路樹や電線地中化などの歩行空間の整備や照明などの治安対策を行う。
- ・外環の整備に合わせた都市計画道路の整備、周辺の主要駅を循環するバス路線の見直しや維持など吉祥寺通りや旧甲州街道を利用した公共交通網の機能確保や地域分断の解消を図る。
- ・「もぐら公園」などの既存の公園の代替機能を確保する。

交通

- ・中央自動車道の側道は、利便性が高く、地域住民が利用する主要な道路である。分断されて通れなくなることが心配である。外環の整備後も行き止まりや回り道にならないように、側道を利用できるようにしてほしい。あわせて、杉並区境の北烏山 2 丁目の側道を整備してほしい。
- ・東八 IC 周辺の烏山通りや吉祥寺通り、新設される都市計画道路などの交通量がどれくらいになるのか心配である。外環本線だけでなく、周辺の幹線道路の流れ、動線、交通量の増減などの交通予測をしてほしい。
- ・中央自動車道の下り方面を利用するには、東八 IC まで迂回する不便な計画なので、環八道路の近くに下り方面の入口を新設してほしい。

環境

- ・都市計画審議会や環境影響評価の内容を見ると、緑の広場や畑、雑木林、路地空間などのアメニティや住みやすさなどの視点が抜けており、環境の劣化が心配である。環境が劣化する分の代用を、中央 JCT 周辺の空間に多めに取りように計画してほしい。
- ・以前、大学敷地内で建設工事をした時に、地下を掘ったら地下水が出た。この地域には水脈があり、外環工事で水脈が切れて井戸水などに影響がないようにしてほしい。
- ・北烏山の寺町通り周辺は戦争や震災時に浅草から寺院が移転してきた歴史ある場所である。高源院には湧水があり、外環工事で水脈に影響が出て、枯れてしまわないか心配である。高源院の湧水を影響評価調査の対象に入れてほしい。
- ・外環開通後に環境アセスメント調査で示された予測と同じ地点でモニタリングし、予測値と実測値の比較と検証を行い、何か問題が生じた際にはそのつど対策が取れるようにしておいてほしい。

まちづくり

- ・烏山通りから天神山通りまでの中央自動車道の側道が計画に示されておらず、分断されるのではないかと心配である。どのような道路になるかを歩道も含めて示してほしい。
- ・吉祥寺通りの交通分断が心配なので、都市計画道路三鷹 3・4・11 の線形を見直して、ジャンクション部で迂回しても再び吉祥寺通りに戻るようにしたらどうか。
- ・生活道路が計画地で分断され行き来できなくなることが心配なので、分断の可能性のある道路については、将来の計画を説明してほしい。
- ・北烏山もぐら公園（北烏山八丁目緑地）が補助 219 号線で分断されてしまうのが心配である。プレイパークとして利用されている他に避難所にも指定されており、緑豊かな生態系を保全するための代替措置が必要である。

安全・安心

- ・生活に身近な生活道路は、4m まででそれ以上には拡幅しないほうが良い。生活道路に抜け道利用などの通過交通が増え、交通事故も増えるのではないかと心配である。
- ・都市計画道路補助 219 号線沿いは、真暗なので、道路整備と合わせて、街路灯を整備してほしい。
- ・都市計画道路の整備と合わせて、電線などの地下埋設物を統合して共同溝を整備してほしい。
- ・小学校などの施設は災害時の避難所に指定されているが、ジャンクション構造物で地域分断され、避難所までの経路

が遠くならないようにしてほしい。

工事中

- ・ 工事にあたっては、上下水道やガス管などの地下埋設物が分断しないようにしてほしい。

- ・ 換気所から上空に排気ガスを吹上げるときに風圧が高くなり風きり音が出ると思うので、影響評価を実施しているのであればデータを示してほしい。実施していないのであれば、追加調査してほしい。

- ・ 換気所の高さは、15m でも 45m でも換気性能は変わらないと説明されているが、低くてもよいという根拠になるデータを示してほしい。

(2) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 換気所の高さを周辺の 7 階建て程度の建物よりも高くし、大気質に関する影響を低減させる。
- ・ 換気所の高さ別に換気性能や風きり音などの影響評価の比較やその検討データの開示・提供を行う。

環境

- ・ 換気所が 2 箇所計画されており、大気汚染が起こるのではないかと心配である。周辺地域の住民に影響が出ないように、換気所の高さをできるだけ高くしてほしい。
- ・ 換気所の高さが、三鷹市環境センターの煙突よりも低いので影響が無いのか心配である。中央環状新宿線の換気所に比べても低く、CO2 の処理能力が心配である。景観よりも大気質や騒音への対策が大切だと思うので、換気所の高さを 15m ではなく 45m に高くしてほしい。景観に配慮して低くしろという意見は周囲で聞いたことがない。低くするのは建設費用を抑えるためでないか。
- ・ 換気所から排出ガスを放出する際に低周波音が発生するが、その対策はできているのか心配である。1/3 オクターブ周波数分析をして、周波数の成分を示してほしい。
- ・ 換気所の高さは、周辺に高い建物がないので 15m にしていると説明されているが、最近では、7 階建ての建物が建設され始めている。15m では周辺の建物よりも低くなる可能性があるため、景観よりも大気質の影響を配慮して、30m よりも高くしてほしい。

(3) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 高架下の低周波音、ジャンクションの利用台数予測による影響の上乗せなどを追加調査し、環境への影響を把握するとともに、その結果を公表する。
- ・ 練馬方面への Uターン方式の撤回や中央自動車道脇への出入口の新設などジャンクションの複雑な動線を見直し、安全性の向上や環境影響の軽減を図る。
- ・ 工事の事前協議の取り決めの内容を守るように徹底し、工事中の環境悪化の防止に努める。
- ・ 中央自動車道に工事車両専用の出入口を新設し、周辺地域の交通渋滞が発生しないようにする。
- ・ 開削工事で中央自動車道の基礎に影響が出ないようにする。

交通

- ・ 中央自動車道の下り方面を利用するには、東八 IC まで迂回する不便な計画なので、環八道路の近くに下り方面の入口を新設してほしい。

環境

- ・ ランプが高架になる箇所の下では低周波音が発生するが、その対策はできているのか心配である。何デシベル以下という基準値を下回ったとしても「気になる音」があるので、その観点で調査してほしい。測定に当たっては、1/3 オクターブ周波数分析をして、周波数の成分を示してほしい。
- ・ 料金所や掘割部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。

また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいのあるのかを予測してほしい。

- ・高架になるランプの下部で低周波音が発生することが心配なので、低周波音の影響評価をしてほしい。

安全・安心

- ・ジャンクションやインターチェンジの経路が複雑で、事故が起こるのではないかと心配である。特に練馬方面との出入りでUターンすることは、この地域に排出ガスを撒き散らすようなもので大気への影響が心配である。東八ICの北に練馬方面へのインターチェンジと、中央自動車道の側道に直接出入りできるインターチェンジを新設すれば、CO2や交通量を分散できるのではないか。

- ・外環の練馬方面への出入りがUターン方式で計画されているなど、ジャンクション構造が複雑であり、事故や火災などの発生が心配なので、Uターン方式の撤回や中央自動車脇への出入口の新設など再検討してほしい。ジャンクションの建設費も低減すると思う。

工事中

- ・工事中の特定建設作業については、工事業者と事前協議をして届出が出されると思うが、その内容が守られない実態が多く、工事中の騒音、振動、粉塵が心配である。近隣への説明会の開催や、届出内容を守るように徹底してほしい。

- ・工事車両が東八道路方面に出入りして、交通渋滞が起こるのではないかと心配なので、中央自動車道に直接出入りするようにしてほしい。

- ・地上から開削工事をする際に、中央自動車道の基礎の強度に影響が出て、高架が傾くのではないかと心配しているので、影響が出ないようにしてほしい。

計画検討の進め方

- ・料金所や掘割部から出る騒音や排出ガスが多いのではないかと心配である。蓋かけなど構造上の検討をしてほしい。また、ジャンクションやインターチェンジを利用する車の台数が予測されているのだから、排出ガスの影響がどれくらいのあるのかを予測してほしい。

- ・環境影響評価で、ジャンクション部の大気質への影響を予測してあるが、その評価が正しいものであったかを検証するために、外環開通後に、予測と同じ場所で計測して公表することを確約してほしい。

(4) 環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・環境施設帯の区域拡大や高木の並木づくり、生態系の分断への配慮など、区のみどり率を向上させる質の高い緑地にする。
- ・掘割部の蓋かけで有効に利用できる面積を増やして、屋内型の複合スポーツ施設の建設や、ジャンクションなどの高架下を利用した広域的な防災施設を整備する。

環境

- ・見学会をしてみて、思った以上に地域に、緑や畑が多く、とても環境が良いと思った。外環が整備されると大気汚染による緑の減少や環境への影響が心配である。環境施設帯が緑の代替になるようにしてほしい。

- ・外環の整備は地域の緑が減少してしまうのではないかと心配している。減少してしまう緑の代替として、インターチェンジの地上部を有効活用しても良いのではないか。

- ・中央ジャンクション整備の地域分断は人間だけの問題ではなく、生物や植物にも影響があると思うので、生態系に関しても追加調査を行ってほしい。

- ・環境施設帯の幅を30mにして、掘割部の蓋かけ部分を増やしてできるだけ範囲を広くしてほしい。緑を現状より増やし10m程度の高木種を植えて、緑の質を高めてほしい。

まちづくり

- ・この地域にはグラウンドなど、区の施設が少ない。中央高速道の高架下が野球などに使われており、そういった地域の需要があると思うので、掘割部に蓋をかけるなど有効活用をしてほしい。

- ・環境施設帯を利用して、体育館やプールなどの複合のスポーツ施設をつくってほしい。騒音や排出ガスの影響がなくなるために屋内施設にしてほしい。

安全・安心

- ・この地区は、外環と中央自動車道が交差する位置なので、災害発生時に毛布や食料などを緊急輸送できるように、高架下や環境施設帯などに災害時のための備蓄倉庫をつくってほしい。

(5) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・最近になって計画地内に住み始めた人も含めて計画内容を周知するとともに測量をして計画線を確定させる。
- ・用地買収に伴う引越などで近所づきあいがなくならないようにする。
- ・都市計画道路整備に伴う用地買収で不整形となる敷地の整形化や、不整形のまま残る敷地は周辺住民の協力を得て、緑化を進める。
- ・中央 JCT から環八道路の問題を考えるために、北烏山 1 ～ 9 丁目の住民で話し合いの場を設ける。
- ・中央自動車道の渋滞を解消させる。
- ・工事車両の交通計画を都条例で規制するなどにより、工事中の地域の安全性の確保を図る。
- ・日本女子体育大学など影響の大きい地権者に対して、用地補償などの見通しを早期に示す。

交通

- ・中央自動車道の上り方面が、朝や土日に渋滞しているので、環八道路から首都高料金所までの区間は 3 車線にして渋滞を解消してほしい。

まちづくり

- ・計画地内に住んでいる人と交友関係がある。近くに代替地が見つからずに遠くに引越してしまうなど、近所づきあいがなくならないようにしてほしい。

工事中

- ・工事が出る残土を運搬する車両の行き来が心配である。工事車両の交通計画を作してほしい。工事車両の交通計画を都条例で規制することも考えられる。また、残土の処理先も明確にしてほしい。

用地・補償

- ・最近でも計画地内に住宅が分譲・販売され続けている。最近になって新しく住み始めた人たちを含めて、事業化の時期などを説明してほしい。

- ・測量の結果、現在示してある区域が広くなることがあるのか知りたい。
- ・都市計画道路補助 219 号線が大学敷地を通る計画である。校舎の改築やカリキュラム変更など影響が大きく、学校経営上の対応すべきことが多いので、都市計画道路補助 219 号線の整備時期を早めに教えてほしい。
- ・都市計画道路補助 219 号線の用地買収で、日本女子体育大学や隣接する敷地で三角形などの不整形で狭隘な敷地が発生する。それらの敷地を入れ替えるなどして、整形化することができないか検討してほしい。都市計画道路補助 219 号線の整備をするなら、不整形で狭隘な敷地を利用して、また周辺住民の協力を得て緑化してほしい。
- ・日本女子体育大学の敷地は区道で 2 分割されているが、さらに都市計画道路補助 219 号線が通ると 4 分割されることになる。敷地がさらに分断されないように、都市計画の廃止や地下化を含めた見直しや、現在の区道を付け替えるなどして敷地の統合を検討してほしい。
- ・三鷹市に関する課題は三鷹市に任せておいた方がよい。世田谷区が口を出すことではないと思う。
- ・中央 JCT から環八道路の問題を考えるために、北烏山 1 ～ 9 丁目の住民で話し合いの場を設けて、解決策を議論したい。

計画検討の進め方

D グループ

(1) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・大気質に関わる実態のデータ(喘息患者数)を詳しく把握するとともに、測定地点の細かい設定と詳しい調査と情報の開示および排出ガス対策の最新技術（脱塵・脱硝技術など）の導入を図ることで、排出ガス対策をできる限り強化する。
- ・排出ガスを利用した発電を行い、地域などで利用する。
- ・排出ガスによる周辺への影響をより一層低減するために、ジャンクション内での換気所の位置などについて再検討する。

環境

- ・現計画では、換気所はトンネル内の排出ガスの処理のために設けられる施設であるため、オープンのジャンクション部分から直接排出されるガスによる地域への影響が懸念される。できるかぎりジャンクション部の蓋かけを行うとともに、排出ガスを最大限処理するための最新装置を換気所に設置する必要がある。
- ・トンネル内の排出ガスを換気所に集中させて適切に処理できるのか不安である。適切に処理するためには、換気所に最新の除塵脱臭装置を設ける必要がある。
- ・換気塔からの排気で発電するなど、外環の整備によりプラスの効果が生まれるように考えるべきである。
- ・外環の排出ガスの影響による喘息の悪化が懸念されるため、排出ガス処理の最新技術を導入してほしい。
- ・外環整備に伴い喘息患者が増える懸念がある。その課題解決のため、排出ガス対策が適切に計画されるよう、現状の喘息患者数のデータを詳細に調査して実態を把握してほしい。
- ・環境基準の信頼性がわからず、喘息患者にとっては特に大気質による影響が不安である。その課題解決のため、排出ガスによる少しでも低減するよう、国レベルでの排出ガスの規制強化を図ってほしい。

計画検討の進め方

- ・換気所からの排出ガスによって喘息患者が増えると同時に都の医療負担が増える懸念がある。その課題解決のために、喘息患者が増えないよう、大気汚染の実態を詳細に把握した上排出ガス対策を行ってほしい。
- ・日々進化している大気汚染対策技術の活用が望まれる。その課題解決のため、事業行程の中でできるだけ排出ガス処理が行われるよう、工事段階においても最新技術を導入してほしい。
- ・排出ガスによる周辺地域への影響を少なくするため、換気所の位置をジャンクションのエリアの中央部に移動し、1本にまとめた場合の効果について検討してほしい。
- ・大気質の影響調査の測定値が一箇所だけを示して説明されたため、他の箇所での影響が心配である。その課題解決のため、多くの箇所での影響の予測値がわかるよう、大原などの地点も含めた詳細な調査結果を示してほしい。

(2) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・できる限り蓋がけをし、排出ガスの流れを防ぐ（料金所、ランプ部分）ことや供用後の排出ガスに関する定期的な測定を行うことで、排出ガスの影響を把握・低減する。
- ・蓋がけをした空間へのヘリポートの整備やコミュニティ空間を設けることにより、防災や救急に役立つよう、地域や社会のため、最大限有効利用する。
- ・既存インターを有効利用（高井戸 IC のフルインター化）などにより、中央 JCT の交通量を軽減し、交通事故対策を実施する。
- ・ソーラーパネルを利用した発電や、振動、排出ガスを利用（悪い要素を逆転の発想で有効利用）した発電を行い、地域などで利用する。
- ・東八 IC からの進入路の工夫により、地上部の連絡できる範囲をできる限り広げる。

環境

- ・ジャンクションが供用されなければ外環の排出ガスの実際の影響はわからないため、供用開始後の環境影響の測定を定期的実施してほしい。
- ・外環の地表部分に覆いをするのであれば、覆いにソーラーパネルを貼るなどして積極的に外環整備によるメリットを生み出せるとよい。
- ・振動で発電する実験が他の事例で行なわれていることを踏まえ、外環の計画においても同様な取り組みを検討してみべきである。電気は住民も利用できればよい。
- ・オープンのジャンクション部からの排出ガスによる悪影響が懸念される。その課題解決のため、排出ガスの外部への流出を防げるよう、ジャンクション部にできる限り蓋をかけてほしい。

まちづくり

- ・ジャンクション部分にできるかぎり蓋をかけ、その上の空間を活用して、地域コミュニティのための緑化や公園整備を行ってほしい。
- ・ジャンクション上部に蓋をかけて大きな環境施設帯をつくれば、排出ガス対策や緑化だけでなく防災基地としても活用できる。高速道路と直結しているため災害物資の輸送な

どに有利であり、外環の価値を高めることができる。

- ・蓋かけした場合の上部空間を地域や社会のために積極的に有効利用すべきである。その課題解決のため、防災・救援に役立つ施設になるよう、ヘリポートを整備してほしい（車両用施設より空輸施設のほうが確実で効果的である）。
- ・外環による地域分断を解消するため、東八 IC からのジャンクションへの進入路をできるかぎり地下化、または手前から下ろすなど、東西に連絡できる部分の幅を広げられるよう工夫してほしい。
- ・中央 JCT・東八道路 IC が複雑であるため交通事故が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT の利用者が減少するよう、既存のインターチェンジの利用を促進する方策として高井戸 IC のフルインター化を図ってほしい。

安全・安心

(3) トンネル部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ジェットファンにも、最新技術の導入、システム機能の向上により、できる限り排出ガスを処理する対策を講じるとともに、それらについて適切に管理する。
- ・建設時だけでなく、供用後も 10 年、20 年・・・と、できる限り長期間、定期的に地下水や大気など環境全般についてチェックを入れて影響調査を行う。その調査にあたっては、現地の状況に詳しい専門家の意見を聞く。
- ・冠水に対する十分な排水対策を行うことで、災害時の危険性を低減する対策を講じる。

環境

- ・集中豪雨により外環のトンネル内が冠水して危険にさらされる心配がある。排水対策は検討されているのか、おしえてほしい。されていなければ、しっかり検討して排水対策を実施すべきである。
- ・トンネル内からの大気質の影響が換気所だけの処理では不安がある。その課題解決のため、より空気が浄化されるよう、トンネル内のジェットファンにも最新の排出ガス処理技術の導入を図ってほしい。

- ・排出ガスの処理機能が備わっていてもメンテナンスが不適切になることによる影響の不安がある。その課題解決のため、ジェットファンやフィルターなどの処理装置の維持管理を常に適切に行ってほしい。
- ・外環整備後の地下水への影響が心配であり、影響調査が継続して的確に行われるかが不安である。その課題解決のため、供用後も環境影響を把握して的確な対策が打てるよう、長期間定期的に調査を実施するとともに現地の状況に詳しい専門家を入れた分析評価を行ってほしい。

(4) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・高井戸 IC のフルインター化、中央自動車道高架下空間を活用した道路拡幅や側道の拡幅などを行い、地域の交通ネットワークを改善・充実させて交通の流れをよくすることで、大気質、騒音、振動、交通安全などの問題解消を図る。
- ・周辺の都市計画道路の機能拡充、ルート再検討、交通規制などにより、周辺地域の渋滞緩和、利便性の確保、安全性の向上、環境影響の軽減などの対策を講じる。
- ・中央自動車道高井戸 IC に入り口を整備することで、東八 IC 周辺の渋滞緩和を図る。
- ・福祉施設やマンションなどの新たな立地動向や土地利用に留意し、生活環境に配慮しながら地域道路網の充実を図る。
- ・吉祥寺通りの現在の利便性を残すため、都市計画道路三鷹 3・4・11 との連絡の工夫を図る。
- ・外環本線と周辺道路の整備計画とスケジュールを適切に整合させ、道路網を充実させる。
- ・周辺の計画道路と本線との整合性、交通規制についての情報を事前に公表する。

交通

- ・東八 IC の設置により交通量が増加するため東八道路の渋滞悪化が懸念される。高井戸 IC に上り口を設けることにより東八道路の渋滞が緩和し、生活道路への通り抜けの減少も予想できるため、大気汚染や騒音・振動、交通安全の面での改善も期待できる。
- ・都市計画補助 219 号線は、日本女子体育大学の敷地を通るため、三鷹都市計画道路 3・4・3 号線とともに中央自動車道の側道を活用する形のルートへの変更を検討してほしい。その場合、ジャンクション付近に交通が集中するため、大気質への影響も考慮して検討してほしい。
- ・都市計画道路網の整備において自転車専用レーンを設置することによって主要道路の渋滞解消を図ることができるため、交通利便性や大気質の改善が期待できる。
- ・エイトライナー計画が難航しているのであれば、外環の地下空間を使った「外環ライナー」計画を検討してみてもどうか。それが実現すれば車を使わなくても南北方向の移動が便利になる。
- ・自転車の交通量が今後増えた場合でも、自転車と歩行者が円滑かつ安全に通行できる道路の整備と交通規制が必要である。
- ・都市計画道路補助 219 号線のルートが住宅街や施設の中を通るため、生活環境や施設運営に影響を与えることが心配である。その課題解決のため、当該道路のルートが変更されるよう、中央自動車道の側道や高架下を利用するなど計画の見直しを行ってほしい。
- ・中央 JCT 周辺地域の交通の流れを改善し道路の利便性を向上させる必要がある。その課題解決のため、道路ネットワークが充実するよう、既存の中央自動車道の高架下の空間を道路用地として有効活用する方法もある。
- ・福祉施設やマンション、身体障害者施設などの生活系の建設が進んでいるため、新たな生活環境への影響や利便性に配慮した道路の整備が望まれる。その課題解決のため、外環周辺の建物の立地動向や土地利用に留意した道路網が形成されるよう、地域交通計画を行ってほしい。

環境

- ・都市計画補助 219 号線は、日本女子体育大学の敷地を通るため、三鷹都市計画道路 3・4・3 号線とともに中央自動車道の側道を活用する形のルートへの変更を検討してほしい。その場合、ジャンクション付近に交通が集中するため、大気質への影響も考慮して検討してほしい。

- ・外環の周辺道路の交通による排出ガス、振動、騒音などの環境全般に対する影響が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT 周辺地域に集中する交通量が分散されるよう、既存の高井戸 IC をフルインターチェンジにしてほしい。

まちづくり

- ・地域が分断されて交通利便性が悪くなることが心配。今の生活動線やコミュニティの状況等を尊重し地域の現状を詳しく調べ直して都市計画道路の位置や線形等を再検討すべき。
- ・駅への交通、バス交通路など利便性はどうなるのか不安である。都市計画道路は住民生活の動線を精査して再検討してほしい。
- ・昭和 41 年に決められた都市計画道路網は、生活環境や施設経営（用地補償）の面で問題が生じると考えられる。したがって、交通ネットワークに配慮しつつ外環周辺の都市計画道路網（主に都市計画補助 219 号線）を見直してほしい。
- ・外環の周辺道路の交通による交通事故の発生が懸念される。その課題解決のため、中央 JCT 周辺地域に集中する交通量が分散されるよう、既存の高井戸 IC をフルインターチェンジにしてほしい。
- ・地域分断を生じさせないためにも、地域の重要な生活幹線道路である吉祥寺通りの利便性を残せるように工夫し、都市計画道路三鷹 3・4・11 と吉祥寺通りとの連絡位置を再検討してほしい。

用地・補償

- ・都市計画補助 219 号線による用地補償があっても現在の敷地の周りに代替地がなければ、大学（日本女子体育大学）の経営に影響が生じる懸念がある。建て替えを行えば解決できるとも限らない。大学は立地条件や施設の状態で経営に影響するため、施設の性格も考慮して都市計画補助 219 号線を再検討してほしい。

計画検討の進め方

- ・地域の適切な道路ネットワークが重要であり、外環本線と周辺道路の整備時期がずれていると地域の交通問題が起るため、周辺の計画道路と本線との整備の内容やスケジュールなどの整合性について情報を提供してほしい。
- ・道路整備による地域住民の生活への影響を回避するため、工事中や供用後の交通規制などの情報を事前に公表してほしい。

（５）環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・排出ガス、地球温暖化、ヒートアイランドなどの環境問題に対して、効果的な緑化をはかる（樹種、植え方の工夫をはかる）。そうしたことを行いながら、外環周辺の既存の緑とのつながり（グリーンネットワーク）をつくりだし、地域の潤いある景観、生態系など良好な環境をつくる。
- ・木枯れの状態を観察できるような緑地整備を行うことで、環境汚染の指標として活用する。

まちづくり

- ・地域住民にとっては大気質の汚染が進んでいることが直ぐに確認できない不安がある。環境汚染の指標として、木枯れの状態を観察できるような外環の環境施設帯の緑地整備を提案する。

環境

- ・排出ガスの影響を少しでも低減させるとともに、温暖化やヒートアイランド現象の対策にもなるよう、外環の環境施設帯を活用すべきである。その課題解決のため、様々な環境問題に対して効果が期待できる緑化を図れるよう、環境施設帯に植える樹種の選定等を行ってほしい。
- ・外環によって緑の減少が懸念される。その課題解決のため、潤いある景観や生態系にも配慮したグリーンネットワークが形成されるよう、周辺の既存の緑地と環境施設帯を活かした、地域のつながりある緑地を整備してほしい。

(6) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・大気質の現状調査結果や、今後の予測データなど、住民の不安が解消されるよう、分かりやすく、十分な情報提供を行う。
- ・法律の基準に従うだけでなく排出ガスなどによる地域への影響を低減する対策を講じる。
- ・これまで出されてきた課題の解決策を実現させていくためには、地権者との十分な合意形成をはかることが重要かつ基本であることを認識して事業に取り組んでいく。
- ・計画要素すべてのアイデアのイメージをわかりやすくし、より効果的な検討が可能となるよう、例えばジャンクション部の蓋がけする部分等の図面や情報の住民への提供や、CGなどのシミュレーションを行う。
- ・外環整備に関わる課題は様々で多いが、地域のため、社会のため、外環整備が大きなメリット（社会貢献度の高い付加価値）を生み出す。
- ・外環と中央自動車道の管理に関する計画を柔軟に立案してもらいたい。
- ・調査や計画の検討の経緯や内容の途中チェックや確認に住民が継続して関われるように検討を進めるとともに、その経緯や内容をわかりやすく公表する。

用地・補償

- ・外環や周辺の都市計画道路の整備に伴う用地補償について、地権者など権利関係者の合意形成が必要である。
- ・様々な課題解決のアイデアを出しても地権者が合意しないことにより実現できないという懸念がある。その課題解決のために、隣接区市内も含め同意が得られるよう、地権者への十分な対応により合意形成を適切に進めてほしい。

計画検討の進め方

- ・東八道路周辺の大気質が現状で環境基準を超えているのではないかと心配である。東八道路をはじめ、主な地点の大気質の状態をおしえてほしい。
- ・外環の排出ガスの影響について、幼稚園・学校だけでなく公園など不特定多数の人が集まる施設の詳しい予測データを住民等にわかりやすく伝えてほしい。
- ・現時点の外環による環境影響の予測結果に満足するのではなく、より影響を低減するために、法改正も視野に入れて

環境基準の厳格化を検討する必要がある。

- ・法律の基準に従うだけでなく、排出ガスによる影響をより低減するための対策を検討していくことが重要である。
- ・環境影響の予測結果を詳しく知るためには、分厚い評価書をしっかり読まなければならない。公告・縦覧などの中でわかりやすく説明を受けることができるとよい。
- ・中央自動車道と外環の管理主体が分かれていると、問題が生じた際に適切に対処できない場合があることが考えられるため、柔軟に対応できる管理計画を立てほしい。外環の管理主体が中央自動車道と同じであるのか知りたい。
- ・外環整備が地域にとって悪影響だけをもたらす結果になってしまう懸念がある。その課題解決のために、さらに付加価値が高まるよう、地域や社会にとってメリットをつくりだすものにしてほしい。
- ・ジャンクション部に蓋がけできる部分がわからないため、アイデアを出しても実現可能であるのか不安である。そのため、具体的な検討ができるよう、蓋掛けできる部分の図面や情報がほしい。
- ・今まで出された意見をもとに対策を実施するとどのようなのか事前に知ることが次の検討に効果的である。そのため、アイデアを実現させた場合のイメージがわかるよう、CGなどを使ったシミュレーションがほしい。
- ・住民意見が適切に反映された計画にするため、調査や計画の検討の経緯・内容の途中チェックや確認に住民が参加できる方法で検討を継続してほしい。
- ・調査や計画の検討内容を誰もが容易に把握できるよう、広報などで内容を公表する。

E グループ

(1) 周辺部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・都市計画道路の整備や烏山通りの改良、IC の追加などを外環の整備に先立って行うことで、予想される東八 IC 周辺の渋滞問題や安全性の低下への対策を講じる。
- ・東八道路出口の左折禁止や中央自動車道の料金施策など、外環供用後のソフトな対策により、予想される東八 IC 周辺の渋滞問題や安全性の低下への対策を講じる。
- ・周辺地域の道路網計画や都市計画道路の計画の見直しなど、外環の整備に併せて検討を行う。
- ・バス路線の維持や充実した道路ネットワークの構築など、誰もが行きたいところに無理なく移動できるよう、周辺地域の交通利便性の向上を図る。
- ・地下水脈の調査と結果の開示、緑地の復元、地下水の保全、豪雨時の浸水など、自然環境に関する各種対策を、外環の整備と併せて実施する。
- ・工事用車両の走行経路規制や走行禁止区間設定などを行うことで、工事期間中の地域住民の安全性の確保や生活環境の悪化防止策を講じる。

交通

- ・インターチェンジが東八道路 1 カ所だと、そこから甲州街道（国道 20 号）へ向かう車は烏山通りなどを通ることになり、今以上に渋滞がひどくなる。ジャンクションから甲州街道（国道 20 号）へ出たい人のために甲州街道（国道 20 号）側にもインターチェンジが必要である。
- ・東八 IC から甲州街道（国道 20 号）へ向かう車は烏山通りに集中し、烏山通りが渋滞することが明白であるため、烏山通りを再整備する必要がある。
- ・東八 IC 完成後に烏山通りに車が流入することを懸念している。そのため都市計画道路補助 216 号線、217 号線の整備を東八 IC 完成に合わせて進めるべきである。
- ・都市計画道路補助 216 号線、217 号線が整備されたとしても、東八 IC の位置から考えると甲州街道（国道 20 号）へ抜けるには遠回りになるため、より近い烏山通りを使う

人の方が多いのではない。都市計画道路に加えて、烏山通りの整備を考えるべきである。

- ・東八 IC 完成時に烏山通りに車が集中しないために、烏山通りの東八道路出口は左折禁止にするなどの規制をする必要もあるのではない。
- ・東八 IC への一極集中や周辺道路の渋滞を回避するため、道路整備だけでなくソフト対策も必要だと思う。例えば、外環利用車が中央自動車道の永福町料金所や調布 IC から入る場合は外環通行料のみ払うことにすれば、東八 IC に車が集中しないですむ。
- ・現在も東八道路、烏山通り、吉祥寺通りの渋滞を避け生活道路に車が流入している。インターチェンジの出入り口ができれば間違いなくその状況は悪化する。外環整備と平行して周辺道路の整備が絶対必要条件である。
- ・外環整備と平行して、都市計画道路や主要道路（東八道路、吉祥寺通り、甲州街道（国道 20 号）、烏山通り）の整備を行い、今よりも快適な生活環境をつくってほしい。
- ・生活道路を再整備し、すっきりした道路網を検討すべきである。
- ・今計画されている都市計画道路では中央 JCT 周辺の渋滞解消はできないのではと思う。道路単体ではなく、もっと広いエリアを一体的に、道路網として考えて計画してほしい。
- ・外環整備に伴い都市計画道路補助 219 号線を新たに整備するのであれば地域への影響が少なくなるよう地下にするのはどうか。どこで地上に出すかは問題だが。
- ・JCT、環境施設帯が整備されることで、周辺に行き止まり道路ができないように、代替路線の検討等、それらの対策を練る。
- ・周辺の都市計画道路整備の目処も立たない中で外環整備を進めれば、烏山通りなど周辺の生活道路への通り抜け車両が増加することは間違いのないことから、現実性のない都市計画道路を見直し、むしろ烏山通りをはじめとした生活道路の整備を早急に進め、安全・安心の歩行空間を確保する。
- ・都市計画道路補助 219 号線と調布都市計画道路 3・4・13 の整備理由が不明なことから、外環整備を機に見直しをする必要がある。
- ・都市計画道路補助 219 号線を含め、周辺の都市計画道路を整備する際に代替地などの補償の確約もない中で、外環整備が進められるのは不満である。都市計画道路についてま

環境

まちづくり

だ具体的になっていないのであれば、外環整備に併せて見直しをし、むしろ生活道路を整備する。

- ・ 周辺の生活道路については、環境施設帯内に含まれてなくなる道路もあることから、代替道路整備も含めて、今後どうすべきか、この場できちんと意見を出し、隣市などの行政間と連携をとりながら進めていく。
- ・ 外環整備後、東八 IC から東八道路を通過し、都市計画道路補助 217 号線に車が流れる可能性は極めて低く、むしろ烏山通りの通過車両が増加することが予測されることから、都市計画道路補助 217 号線の見直しをし、烏山通りをはじめとした生活道路の整備を優先する。
- ・ 緑多い地域であるが、中央 JCT、東八 IC ができるとでその多くが失われることが懸念である。そうならないように復元してほしい。
- ・ 外環整備により、多摩川から流れてくる地下水脈が切れ、地下水が涸れてしまうことから、正確なデータ収集をし、調査をした上で対策を練り、地域へ公表する。
- ・ 周辺地域の河川はほとんど暗渠であり、現時点でも浸水被害が多いことから、外環整備により、さらに同様の被害が懸念される。地下水脈の調査をすることが必要である。
- ・ 東八 IC 東側の都市計画道路補助 216 号線、217 号線は IC 完成時に整備されているか不明なため現実的対策とは言えない。既存の烏山通りの拡幅の方が、時間的、ルートの、事業費的にも現実的対策案だと思う。
- ・ 烏山通りを拡幅するにしても、片側はすでにマンションが立ち並び、もう一方も道路後退できるのか疑問である。拡幅するのなら、沿道の建築規制を早い段階から行う必要があるのではないか。
- ・ 吉祥寺通りが分断されバス路線がなくなってしまうと、バスの便があることを前提にして住んでいる地域住民にとっては大きな損失になってしまう。日常生活の便を考え、バス通りとしての機能を確保する必要がある。
- ・ 吉祥寺通りが分断されないように、三鷹都市計画道路 3・4・11 を環境緑地帯内で延ばし吉祥寺通りにつなげればよい。
- ・ 都市計画道路補助 219 号線はなぜ必要なのかという理由が明らかでない。環境施設帯に側道を設ければ十分ではないのか。

安全・安心

- ・ 外環整備に伴い都市計画道路補助 219 号線を新たに整備されると地域生活が成り立たない。新たに整備するのではなく、中央 JCT 敷地内に道路を新設するなど、周辺地域への影響を小さくする工夫をしてほしい。
- ・ 都市計画道路補助 219 号線が大学の敷地内を通るため、大学側としてはとても厳しいと感じている。ぜひ異なるルートで整備してほしい。
- ・ これまでの生活道路が外環整備により広範囲にわたりなくなると生活が成り立たない。これまでの生活ができるような代替道路の整備が必要である。
- ・ 地域が高齢化していくことを踏まえ、車がなくても移動がしやすい、歩いて移動ができるということを意識したまちづくりを考えるべきではないか。
- ・ 外環整備によりバス通りである吉祥寺通りが分断されてしまいが、通学・通勤でバスを利用する住民のために、代替ルートをつくり、バス通りの機能を確保する。
- ・ 中央自動車道の高架下を有効利用する。十分な避難空間になる。また高架下にある公園は、雨が降っても遊べるし、災害時にも人が集まることができる。
- ・ 烏山通りは、徒歩や自転車を利用する児童・生徒が多く、車が増えれば交通事故の発生が強く懸念される。安全確保のための対応策が必要である。
- ・ 烏山通りは狭い歩道を自転車と歩行者が利用しており、子供たちの安全を考えると新たな道路をつくるよりも烏山通りを改良するべきである。
- ・ 外環整備により生活道路への通り抜け車両の増加や、地域分断が懸念されることから、高齢者や車椅子も安心して移動ができる、バリアフリーの視点で道路整備、まちづくりを進める。
- ・ 外環整備をしたことで、集中豪雨時に外環トンネル内のみならず、周辺地域の浸水も懸念される。地域へ浸水が起きた時に、何らかの補償をする。
- ・ この地域は、降雨時に浸水の課題があることは明らかであるが、遊水池の設置場所も含め、降雨時に関する説得力のある説明がないことから、地域特性を理解した上で、具体的な提案をする。
- ・ 集中豪雨が頻繁にある昨今、周辺地域への浸水が懸念されることから、調布市などの近隣市と連携をはかりながら、

説得力のあるデータを基に、浸水対策を進める。

工事中

- ・ 工事中は周辺地域の生活道路にトラックが通過することが心配であるために、通学路を避けた工事車両のルートを予め決め、地域に知らせることで、安全の確保をはかる。
- ・ 工事中は安全を第一に考えた工事を進め、周辺地域の生活道路にトラックが侵入したりしないようにする。

(2) その他

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・ 住民の意見を聞くだけではなく、対応の是非、検討の是非も含めどのように反映したのかを明確にし、どの段階でも住民の進め方への不信、不満を払拭する。
- ・ 行政は工事期間などのスケジュールを予め十分周知し、迷惑を被る住民の不安や不満を多少でも解消する。
- ・ 行政は何か問題が起きた時に、早い段階から対応する専用窓口を設け、住民の困りごとを解消する。
- ・ 行政は検討会終了後も住民との情報共有の場、意見交換の場を設け、一方的な情報開示・提供を避ける。
- ・ 行政は地域のメリットを提示し、住民が納得した上で計画を進める。
- ・ 近年の集中豪雨に対応できるよう基準を見直し、外環整備により地域の浸水被害が起きないようにする。

計画検討の進め方

- ・ 外環の整備に伴う排水計画について心配している。最近は大雨も多くなってきているので、たとえ 10 年に 1 回、5 年に 1 回程度であっても、大雨の際にも十分対応できるような計画にすべきである。
- ・ 都市計画決定がされている以上、前向きに計画を進めてよいと思うが、地域に何らかのメリットが生まれることを具体的に提示し、地域が納得した上で計画を進めることが必要である。中央自動車道の計画時のように地域にメリットがない状況では、今回は計画が進まないだろう。

まちづくり

- ・ 住民は、地域が今以上によくなるということが具体的に示され、納得できれば、多少の権利関係は我慢できるものである。中央自動車道の計画時とは異なり、今回はせっかく PI 方式で進めているのだから、やるのであれば、早く具体的な案やメリットを提示し、進めるべきである。
- ・ 計画のために痛みを伴うときは、完成後に今以上のすばらしい将来像が見えれば、人は我慢するものである。また、補償面を先送りにするのではなく、具体的な提示をする。
- ・ 外環に接する住民には当然迷惑ではあるが、地域のためになり、そして自分たちにも何らかのメリットがあれば、我慢するものだ。整備すると地域のためになるという案が具体的に提示されないことへの不満があるので、整備後の地域の将来像の具体的なイメージを明確にする。
- ・ 検討会終了後、今後のスケジュールなどの情報共有の場がなくなること、住民には情報がない、あるいはあっても行政からの一方的な情報になるため、今後も情報共有の場や意見交換の場をつくり、それらをシステム化する。
- ・ 工事中、供用後など、何かが起きたときにどこへ言えばいいのか分からないことから、外環に伴う問題についての「すぐやる課」を設置し、窓口を一本化する。
- ・ 地域分断を避けるために、周辺道路や接続道路について地域で考えるべきということだが、具体的に考えたところで、自分たちの意見をどこまで採用してくれるのか懸念がある。最終的にこちらの意見を採用しないのであれば、「行き止まり道路はつくらない」といった最低限の意見を踏まえて、行政側から地域へ具体案を提示するべきである。

工事中

- ・ 地域が分断されると、より近くに学校があっても区市が違うので外環をまたいで通学しなければならない児童、生徒が出てきてしまう。三鷹市民であっても世田谷区の学校に通えるといった、区市を越えた措置も必要ではないか。
- ・ すでにコミュニティができており、祭りや町会活動なども異なっているので、なかなか難しい面もあるが、外環による分断が発生することを踏まえ、行政区の区分けを新たに考える必要もある。
- ・ 工事期間がわからないと、地域住民に不安や不満が出るが、スケジュールを予め明確にすれば、住民もが、我慢ができる。

用地・補償

- ・外環整備に伴い都市計画道路補助 219 号線が整備されると、日本女子体育大学の敷地が分断され、大学設置基準の、敷地面積等の基準を満たすことが難しくなり運営上問題となる。補償制度を早急に示してもらい、代替地を確保したい。
- ・都市計画図で見る限りでは、都市計画線が敷地にはかかっているが建物にはかかっていない状況である。敷地の一部だけ削られると車の置き場や車の出入りができなくなる。高齢なので早急に今後の対策を考えたいが、計画線が確定ではないので対策が立てられない。
- ・住宅などの建築中に外環工事による被害が出たときのクレーム補償の対応がどのようになるか心配である。クレーム補償に対応してほしい。

(3) 換気所

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・排出ガスの影響を供用後も調査を実施し、データの収集解析を行い、情報開示する。

環境

- ・換気所の高さが 15m では低すぎ、風が強いときなどそのまま周辺地域に排気が下りてくるのではないか。どのような方法で高さを決めているのか。
- ・換気所が十分に機能しているか、継続的にチェックするために、将来にわたって排出ガス調査データを収集し解析してほしい。その解析結果も正確に情報開示し、他の場所の計画にも活用してほしい。

(4) ジャンクション部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・スマート IC の導入やランプ構造の再検討などにより、ジャンクション部の渋滞発生回避の対策を講じる。

交通

- ・ランプの構造が複雑で、そのまま IC に車が流れると、交通渋滞につながる。スマート IC を導入し、ランプ構造もシンプルにし、IC 付近の交通渋滞を避けるための工夫をする。

(5) 環境施設帯

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・スポーツ広場の整備や自転車道や遊歩道整備、側道の設置などにより、地域の資産となる地域交流の場として有効活用する。
- ・整備後も地域で利用・管理し良好な環境を維持していくため、管理主体の明確化や里親制度のような管理に関するルールを構築する。

交通

まちづくり

- ・都市計画道路補助 219 号線の代替として、環境施設帯に側道を設置する。
- ・烏山 8 丁目と 9 丁目はこれまであまり地域間の交流がなかったが、外環によって分断される可能性が出てきたことを契機に、絆が深まるよう、環境施設帯を利用した地域交流の場をつくりたい。
- ・環境施設帯の地域への開放を提案したいが、世田谷区は面積的にあまりかかっていないため、意見が反映されず、利用できる面積も限られるのではないかと危惧している。環境施設帯は国、都、区市のどこの所有で、管理はどこなのか気がなる。
- ・環境施設帯を、子どものスポーツ活動などに利用し、地域

や親子のコミュニケーションの場として有効活用したい。

- ・環境施設帯を使った地域交流の場を作ることで、将来的に地域住民の資産になるようなよいものを残したいと思っている。
- ・環境施設帯をきれいに管理していくために、地域の人に使われ、管理してもらえようにする必要がある。
- ・環境施設帯をネットで囲うとゴミの投げ入れで荒れてしまうし、住民が清掃をしたくても中に入ることもできないため、地域の人管理できるようにネットで囲うべきではないと思う。
- ・環境施設帯を使って車が横断する道を確保するのは難しくても、徒歩で渡れる道が確保できれば、通学の際などに利用でき、完全な地域分断を避けることができると思う。
- ・環境施設帯の有効利用として、地表部に自転車道や遊歩道を整備してほしい。
- ・環境施設帯を地域住民が利用できるようにしてほしいと考えているので、利用方法を提案するために、使える場所や時期を教えてほしい。
- ・環境施設帯を地域で利用し管理もしていくために、里親制度のように国から区、市に管理が委託できるようにするとよい。

計画検討の進め方

(6) トンネル部

【課題解決のための考え方（アイデア）の方向性】

- ・トンネルの耐震基準など大深度構造物の耐震性に関する情報を公開し、懸念が解消できるようにする。
- ・地下水保全対策の計画検討を行うことで、地下水の分断を回避する対策を講じる。

計画

- ・工事により、地下水脈（みずみち）が分断されることが懸念される。保全対策を考えるべきである。
- ・大深度構造物の耐震性を十分に検討しているのかという住民の心配に対し、行政は耐震基準などの情報を住民に解るよう説明し公表する。